

一九三八年二月二十三日

寫

東郷日本大使ガ一九三八年（昭和十三年）二月
二十二日午後五時獨逸國外務大臣フォン・リッ
ベントロツブヲ訪問セル件ニ關スル覺書

(一)

日本大使ハ先づ外務大臣ニ滿洲國承認ノ好意ニ對
シ日本政府ノ深甚ナル感謝ノ意ヲ表明シタ。彼ハ
右ニ際シ日本ハ本件ニ付獨逸國外務大臣ニ如何ニ
多ク負ツテキルカ良ク承知シテキル旨ヲ強調シタ
獨逸ガ植民地攻得ノ願望ヲ達成スルノヲ援助スル
爲欣ンデ全力ヲ擧ゲル用意ガアル旨指摘シタ。日
本大使ハ次ニ植民地問題ニ付語リ、日本政府ハ
獨逸ガ植民地攻得ノ願望ヲ達成スルノヲ援助スル
爲欣ンデ全力ヲ擧ゲル用意ガアル旨指摘シタ。日
本ノ掌中ニアル委任統治領ハ勿論日本ノ國防ニ極
メテ重要デアルカラ、此等ノ委任統治領ハ、日本
ハ永久ニ返還出來ヌト彼ハ、ソノ際強調シタ。日
本政府ハ然シ獨逸ガソノ要求ヲ達成スルノフ凡ニ
ル方法デ支援スル用意ガアリ、如何ナル方法ニテ
爲サレ様トモ、コノ提案ヲ期待シテキルト。獨逸
國外務大臣ハ此ノ好意ニ感謝シ此ノ件ニ話フ戻ス
ノハ留保シ度イト言明シタ。

(三) 日本大使ハ次イデ懸案デアリ、ソシテ將來ノ日獨
經濟交渉ニ就テ述べ次ノ如ク指摘シタ。即チ「ヴ
オールタート」局長ガ元帥ノ委任ヲ受ケテ彼ト本

Not Dec 4040A

2.

Doc 4040A

問題ニ付會談シタ。然シ彼ハ獨逸國外務大臣ガ交渉ニ大ナル關心ヲ有シテ居ルノヲ承知シテ居ルガ故ニ、此ノ交渉ヲ極メテ緊密ナ親睦ニヨツテ獨逸國外務大臣ト共ニ行フ事ヲ要請スルト。獨逸國外務大臣ハ之ヲ諒承シクト稱シ「フォン・ラウメリ博士ニ外務省ノ關係各課及他省ト協力シ此ノ經濟交渉ヲ爲ス事ヲ委嘱シタ。彼ハ自分ハ常ニ、滿洲國ノ承認ハ經濟交渉ト結ビ付ケルベキデハ無ク、此ノ問題ヲヨリ大局的ニ獨立シテ扱フ可キデアルトイフ意見デアツタト強調シタ。彼ハ然シ目下懸案ノ經濟交渉ハ日本側カラモ同様ニ大局的ニ進メテ貿ヒ度イト要請スル。ソレハ支那事變及ビ目下ノ滿洲國承認ハ東亞ニ利害關係ヲ有スル經濟界ニ甚大ナル損害ヲ意味スルカラデアル。而シテ彼ハ寛大ナ協定ニヨリ之等ノ損害ノ或ル報償ガ經濟ニノ滿洲國外務大臣ハ防共協定ニ關シテ行ハレタ會談ノ際、日本側ノ諸氏ニ對シ、支那ニ於ケル協力ニ對シテサレルナラバ大イニ歡迎スルデアラウト。獨逸國外務大臣ハ防共協定ニ關シテ行ハレタ會談ノ際シテハ獨逸ニ、日本人ト凡ユル經濟活動ニ於テ完全ナ同權ガ與ヘラレル事ヲ期待スルト既ニ言明シタト強調シタ。日本大使ハ此ノ希望ヲ自國政府ニ申シ述ベル事ヲ約束シ、此ノ機會ニ彼ハ自國政府カラ經濟交渉ヲナス權限ヲ與ヘラレテキルガ、

Doc 4040A

3.

「ゴゴウ」閣下ハ獨逸ニ於テハ公式ノ委任ヲ受ケ
テ居ラヌト述べタ。

(四) 獨逸國外務大臣ハ次イテ資産凍結問題ニ就テ此ニ
對シ日本大使ハ次ノ如ク説明シタ。此等ノ「クレ
ディット」ノ六〇「バーセント」ハ既ニ償還セラ
レテ居ル。彼ハ大臣ト現在尙凍結サレテキル
支拂ノ整理ニ就テ話シタガ、大臣ハ現在ノ國
辨済ハ日本國內ノ緊急狀態ノ爲非常ニ困難デアル
ト説明シタ。然シ彼ハ支拂協定ト關聯シテ此ノ問
題ガ整理サレ得ル事ヲ希望シテキルト。獨逸國外
務大臣ハ本件ニ於テモ獨逸側ガ示シタト同様ナ寛
大サフ示ス事ヲ望ムト要請シタ。

(五) 最後ニ日本大使ハ更ニ國家間ノ委任會ノ設置ニ付
キ述べ之ハ日本ノ帝國議會デ取り上ゲラレ、政府
ハ議會ニ報告スル爲ニ本件ニ關スル確定的見解ヲ
出來ル限り早ク得度イト要請シタ。日本大使ハ更ニ
ニ處理シテ貲ヒ度イト要請シタ。日本大使ハ更ニ
伊太利ハ協定ニ参加シタノデアルカラ伊太利ニモ
一委員會ヲ設置スル必要ガアルト述べタヘ此ニ關
スル「フォン・ラウメル」博士ノ批評ハ次ノ如ク
デアル。余ノ見解テハ伊太利ニ獨自ノ委員會ヲ設
置スルノハ望マシク無イ。伊太利ハ當地ノ防共委
員會デ代表セラレルデアラウ。羅馬ニ獨自ノ委員

4.

Doc 40404

會ヲ設立スル事ハ私見ニ依レバ仕事ヲ分散セシメ
羅馬ガ獨自ノ行動ヲスル危險ヲ高メ、其ノ上後ニ
ハ新タニ參加スル凡テノ國ニ、ソレゾレ委員會ガ
設置サレル事ニナルデアラウ。日本側ハ恐ラク次
ノ理由デ斯カル委員會ヲ欲シテキルノデアル。即
チ斯カル委員會ガ成立スレバ日本ノ官吏ハ必要ノ
際ハ外務省經由ノ通例ノ外交手段ヲ因避シ委員會
ニ代表ヲ送ツテキル他ノ省ト直接ニ折衝ヲ開始シ
關係國ノ官廳トノ交渉ヲ或ル程度輕減シ得ルカラ
デアル

署名 フォン・ラウメル

4.

Doc 40404

會ヲ設立スル事ハ私見ニ依レバ仕事ヲ分散セシメ
羅馬ガ獨自ノ行動ヲスル危險ヲ高メ、其ノ上役ニ
ハ新タニ參加スル凡テノ國ニ、ソレゾレ委員會ガ
設置サレル事ニナルデアラウ。日本側ハ恐ラク次
ノ理由デ斯カル委員會ヲ欲シテキルノデアル。即
チ斯カル委員會ガ成立スレバ日本ノ官吏ハ必要ノ
際ハ外務省經由ノ通例ノ外交手段ヲ同避シ委員會
ニ代表ヲ送ツテキル他ノ省ト直接ニ折衝ヲ開始シ
關係國ノ官廳トノ交渉ヲ或ル程度輕減シ得ルカラ
デアル

署名

フォン・ラウメル

Doc 4040A

書類第四〇四〇A號

證

余 Ulrich Straus ハ 余ガ獨逸語及ビ日本語
ニ精通セル者ナルコト並ニ獨逸語原文及
ビ日本語原文ヲ對照ノ上右ハ本書類ヲ眞
實ニ且正確ニ翻譯セルモノナルヲ確證セ
ルコトヲ茲ニ證ス。

Ulrich A. Straus 2d Lt

5.

Doc 4040A

書類第四〇四〇A號

證

余 Ulrich Straus ハ余ガ獨逸語及ビ日本語
ニ精通セル者ナルコト並ニ獨逸語原文及
ビ日本語原文ヲ對照ノ上右ハ本書類ヲ眞
實ニ且正確ニ翻譯セルモノナルヲ確證セ
ルコトヲ茲ニ證ス。

Ulrich A. Straus 2d Lt

5.